



—石川県政を振り返る—

知事の辞任表明は将に電光石火と云えるほどに見事なものでした。

勿論、「5選」の壁は厚く、これを突破することの厳しさは当初より承知の上ではありましたが、石川知事として恐らく政治生命を賭けての「富士山静岡空港」であれば、一日でも早い「完全開港」への道筋をつけるために、長い「遼巡」の末に決断したのでした。

しかし、ここに至るまでの県民の石川県政に対する評価は率直に云って極めて厳しいものでした。それ故、私達自民党所属の県議会議員の多くは昨年末以来、新たな候補者の擁立に奔走してきたのであります。

しかし、現職知事の進退が不明確な段階での候補者の担ぎ出しは容易な事ではありませんでした。

今、その門も取れましたので今月中には皆様に納得いただける知事候補を擁立できるものと考えております。

さて、石川知事と私の関わりについてこの際、披露しておきましょう。

17年前のある日、県選出の二人の代議士から

東京事務所への案内があり、そこで彼等から、自治省のキャリアであった石川嘉延氏を「次期知事に擁立」という企てを聞いたのは、市長在任の最中でありました。

もとより私自身、県議時代から石川氏とは昵懇の間柄であれば、二人の提案に快諾、以来、真一文字に石川県政の実現に邁進したのであります。

しかし、こうした動きが何時しか当時の斉藤滋与志県知事の知るところとなり、その結果、権力を笠に、傍若無人に振舞う知事の逆鱗に触れたのであります。私が市長を辞任する切っ掛けはこれを契機として斉藤知事と私の水面下における激しい闘争によるものであります。処で、石川県政「16年の功罪」を失礼ながら私の独眼流で論評させて頂きましょう。

自治官僚出の石川知事の能力と見識はずばらしく、その功績は過去の知事とは比肩できるものではありませんでした。その事がバブル崩壊後の厳しい経済環境の中にあっても本県が確かな発展続けることができたのであります。

例えば県民所得については10年前の9位から

08・09年と東京、愛知に続いて47都道府県中「3位」にランクされて参りましたが、これは本県が全国トップの企業立地件数や製造品出荷額によって裏打ちされたものと確信するのであります。

しかし、惜しむらくは官僚出身故に国からの難題を断りきれず、無益な事業も請け負ってまいりました。

何故か自治省が最良とするSPAC(静岡県舞台芸術センター)は石川県政の代表的な「穀潰し事業」と云わざるを得ません。凡そ15年間に費やした税金は日本平の屋外施設などを除いてもSPACの運営費に100億円余にも拘らず今なお殆どの県民はその存在すら知りません。

また運輸省の実験船「希望」は静岡空港の建設という大事業を前に省の要請を断り切れず購入、その結果「防災船」という、取って付けた名称で県民を誤魔化し、これまた廃船するまでに200億円余の無駄を費やしたのであります。

その結果「NO」と云えない静岡県は現在、凡そ2兆円の借金を抱え、ために元利合わせて4億5000万円を日曜日も祝日もなく返済し続けているのであります。

初代知事・関口隆吉と葵文庫

私がまだ高校生の頃、城内中学の向い側、中堀の角地に県立「葵文庫」が歴史の香りを漂わせながら佇んでいました。

その光景は既に多くの静岡市民にとっても、黄昏の世界と云えるでしょう。

実は、最近谷田にある県立中央図書館を訪れた折、静岡学問所の蔵書や葵文庫から受け継いだ価値ある書籍類を前にして、年甲斐もなく、感慨を覚えたのでした。そこで人々の脳裡から消え去る前に今一度、「葵文庫」の歴史を紐解いてみたいと考え独りパソコンに向ったのでした。

初代静岡県知事・関口隆吉は久能山東照宮の境内に、自ら収集した蔵書をもと

に図書館の建設を企図していました。

しかし、ご案内のように関口は知事就任後間もなく、東海道線の鉄道事故で逝去、このため収集された図書は久能山の社務所に保管されていましたが、大正13年、県立葵文庫の設立に際し、関口家から約2千冊が寄贈され、もって「久能文庫」と命名され葵文庫の貴重な蔵書となつて今日に至りました。

昭和45年、現在地に県立中央図書館が移築され、名実共に本県を代表する図書館として多くの県民に愛されておりま

す。この際、関口隆吉と本県の関わりについて書き添えておきます。

明治2年、維新によって禄を失った旧幕臣たちは新政府に従って朝臣となるか、商人か農民になるか、或いは徳川家家臣に留まるかの選択を迫られていました。

その折、関口は200人の元幕臣と共に精鋭隊(新番組)を組織し、牧之原台地に入植、大草高重らとともに開墾に従事したのでした。

このことが、後に「東洋一の大茶園」誕生の切っ掛けとなつたのであります。

その後、関口は政府に出仕、各地方官を歴任し、明治17年県令に就任、二年後、県の誕生とともに初代静岡県知事となつたのであります。

ちなみに、日本を代表する国語辞典「広辞苑」の編纂者・新村出は関口隆吉の子でもあります。

一寸一言 私の雑記帳から アメリカの命名の裏に

2月の本欄にはリンカーンとケネディの不思議な因縁をご紹介しましたので、ついでに今月も「アメリカ」に関するささやかな雑学を記します。

ご存知のようにアメリカ大陸を発見したのはクリストファー・コロンブス、彼は1492年に初めてこの大地に足を踏

み入れました。以来4度に亘って探検を行いました。実はその地が東アジアの一部(インド)であると信じ、生涯、新大陸の発見には気がつきませんでした。

それ故、この地に住む人々を「インディアン」と呼んだのも更には、後にアメリカ大陸と命名されてからは「アメリカ・インディアン」と呼称されたのもコロンブスの偉大なる「誤解」が原因になったのであります。

コロンブスの航海目的は「絹」を目的と

したインドへの新航路の開拓でありましたので、上陸した土地がまさか、未知でしかも途轍もない大陸とは夢想だにしかつたのであります。

その後、1501年イタリアの探検家アメリカゴ・ヴェスプッチがその地は東アジアのインドではなく、全く別の大陸であることを主張、もって大陸の発見者たるアメリカゴ(ラテン語)の名前から英語表示の「アメリカ」と名付けられたのであります。

走る、春!



桜の季節になると、静岡はマラソンの話題で盛り上がります。34年の歴史をもつ駿府マラソン、24年の歴史をもつ日本平桜マラソン。当初は参加者約600人で始まった駿府マラソンの、今年の参加者は10,000人以上。参会者の増加と共に、瀬古利彦氏や谷川真理さん、増田明美さんなどの一流選手も参加するようになり、大会に花を添えています。

マラソンブームの理由はやはり健康志向。ストレス解消やメタボリックシンドロームの予防策として、走り始める人が多いようです。年齢性別を問わず、いつでもどこでも気軽に始められるのがジョギングの魅力。最近ではウェアもおしゃれになり、音楽を聴きながら走る人の姿も目立ちます。

ただし、無理は禁物。健康状態をしっかり把握し、自分のペースで走り続けることが大切です。マラソンの極意は、人生の長丁場を走り続ける極意にも似ています。季節の風や景色を楽しみながら、マラソンも人生も楽しく走り続けたいものです。

天野進吾と創る文化祭

日時：平成21年5月28日(木)

午後6時開場 6時30分開演

会場：静岡市民文化会館 中ホール

会費：5,000円